

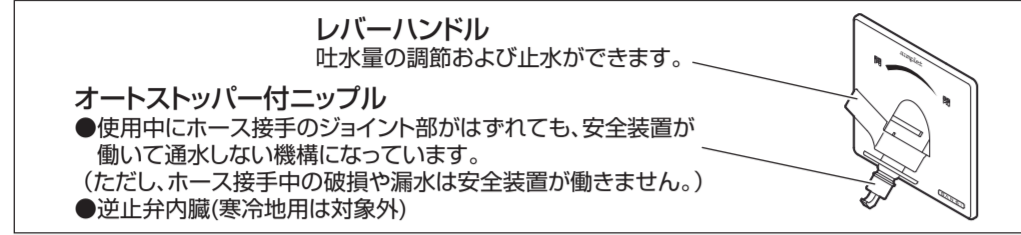
水道用コンセント シンプルット ..... V962LU-1  
 (寒冷地用 ..... V962LK-1)

施工説明書

施工の前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。

- お客様へ.....お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管してください。
- 工事店様へ.....施工後、この説明書をお客様へお渡ください。

本製品について 各部の名称



施工について 施工に関する安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、試験運転を行い異常がない事を確認すると共に、工事店様は説明書に沿ってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- 施工は、水道法、その他の関係する法規などに従って行ってください。

用語および記号の説明

- 警告** ..... 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じる事が想定されます。」
- 注意** ..... 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」
- ⚠ ..... 「注意しなさい!」(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。)
- ⊘ ..... 「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)
- ⊘ ..... 「分解してはいけません!」
- 👉 ..... 「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)

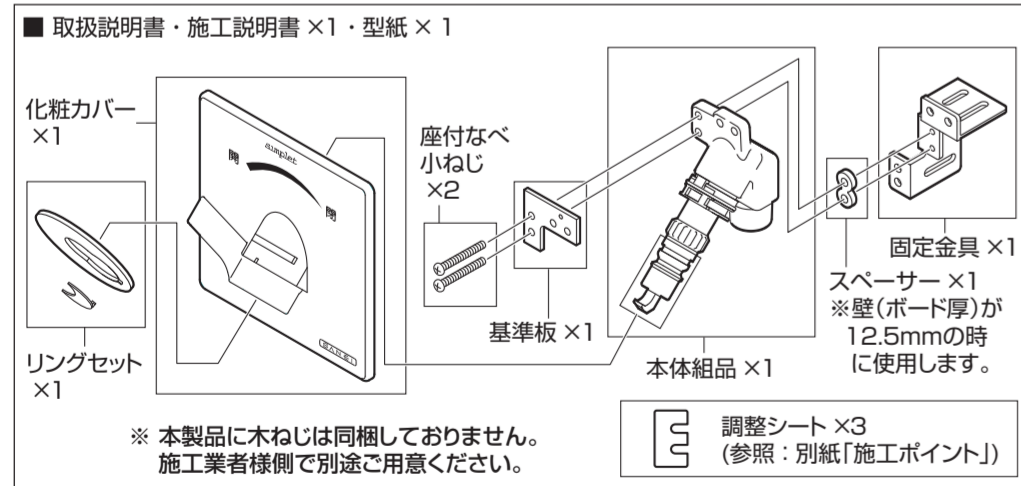
注意

- ⊘ 修理技術者以外の人は、水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。
- ⊘ 電気コンセントの近くに取付けしないでください。水道用コンセントからの水による、漏電のおそれがあります。
- ⊘ 凍結が予想される地域には使用しないでください。凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ⊘ 製品に強い力や衝撃を与えないでください。故障や水漏れの原因になります。
- ⚠ (寒冷地用の場合) 凍結が予想される場所で使用になる場合は「寒冷地用の水抜方法」を参照の上、凍結予防を確実に実施してください。部品が破損し、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。参照：取扱説明書「寒冷地用の水抜方法」

施工について 適切な使用条件

給水圧力			最低必要水圧(流動時) 0.05MPa	最高使用水圧(静止時) 0.75MPa
●給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2~0.3MPa程度に減圧してください。				
使用可能水質			水道水及び飲用可能な井戸水	使用温度
用途			一般住宅用	常温(20℃±15℃)
●ただし、凍結のおそれがある地域の場合は寒冷地用をご使用ください。				

施工について 梱包明細

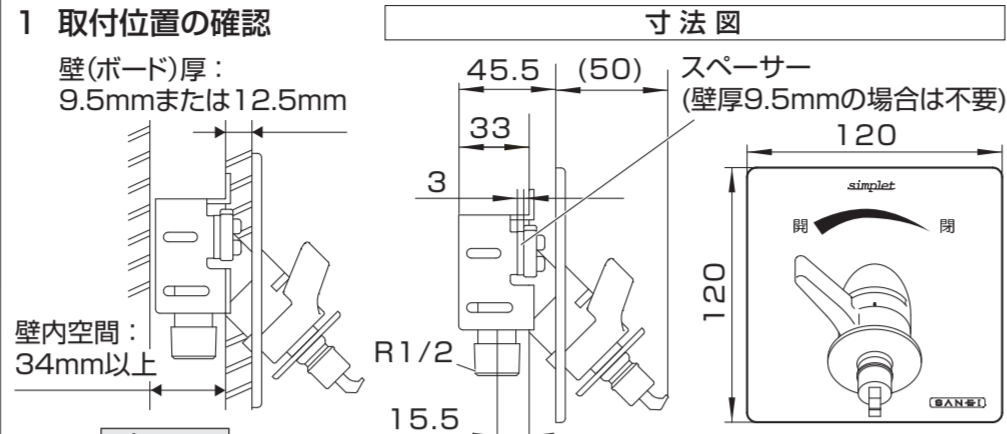


施工について ホース接手の適合について

- 自動洗濯機でのご使用の場合  
 日本電機工業規格(JEM1206)に適合するホース接手をご使用ください。弊社製品では、下記の品番が該当します。  
 自動洗濯機給水ホース SANEI品番:  
 PT17-1-0.5(長さ0.5M) PT17-1-2 (長さ2M)  
 PT17-1-1 (長さ1M) PT17-1-3 (長さ3M)  
 PT17-1-1.5(長さ1.5M) PT17-1-5 (長さ5M)
  - 2槽式でホース接手のない場合  
 PT17-4Fをご使用ください。  
 ニップルに直接ホースを接続して使用しないでください。
- 👉 **注意**  
 自動洗濯機給水ホース以外でのご使用の場合、常にホースに圧力がかかる機器には使用しないでください。ホースが抜けた場合に家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- 👉 **注意**  
 適合ホース:  
 内径φ12~15mm  
 外径φ18~20mm  
 お使いの給水ホース

施工について 施工手順

- 水道工事と壁面取付工事は相互の工程を十分打合わせしてから行ってください。
- 新築時に取付け用の水道用コンセントです。取付けには木枠組が必要な場合があります。
- 取付け時に柱と平行になるよう注意して取付けてください。
- 施工・作動点検のため、ホース接手を用意してください。
- 取付前に必ず通水し、配管内のゴミを洗い流してください。

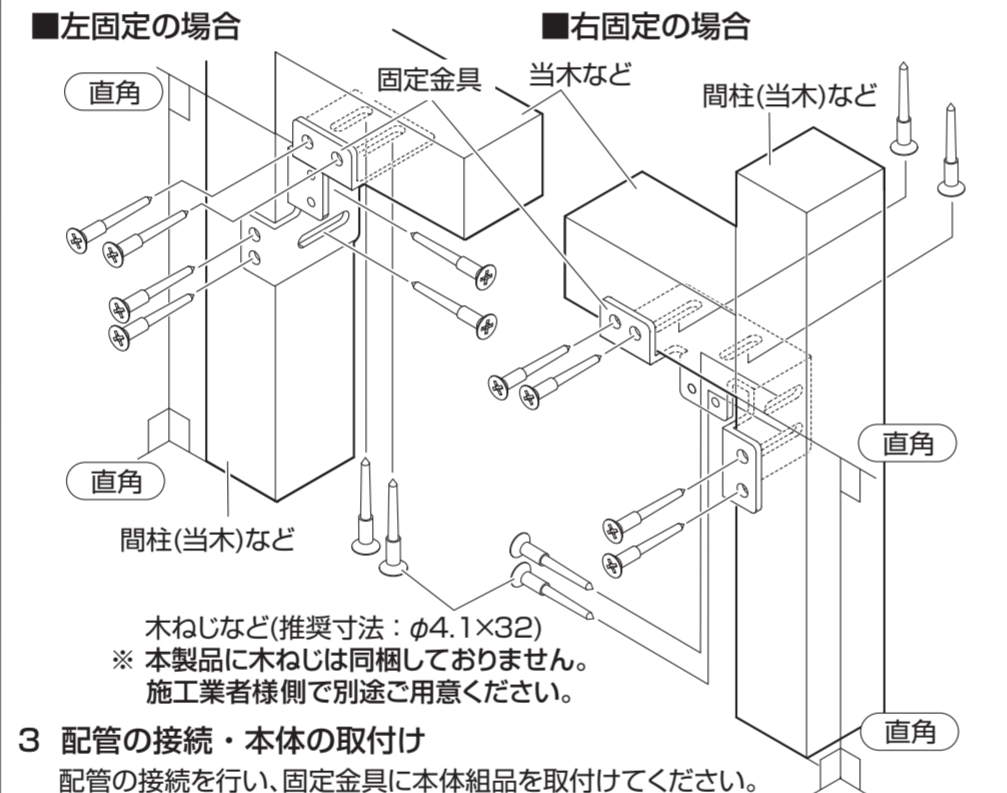


- ⚠ **注意**  
 ●対応壁(ボード厚)は9.5mmまたは12.5mmに対応しています。9.5mmまたは12.5mm以外の壁(ボード)には取付けできません。  
 ●壁内空間は34mm以上確保してください。  
 ●固定金具が固定できるように間柱の近くに取付けてください。  
 ●軽量鉄骨など強度の弱い所への取付けの際は、補強材を用いるなどして十分な強度を保った上で、固定金具を取付けてください。

2 固定金具の取付け

取付位置に合わせて間柱(当木)などを設け、木ねじなどを用いて確実に固定してください。

- ⚠ **注意**  
 間柱(当木)と固定金具はすき間なく固定してください。すき間があったり、傾いていると、製品が正しく取付けできません。

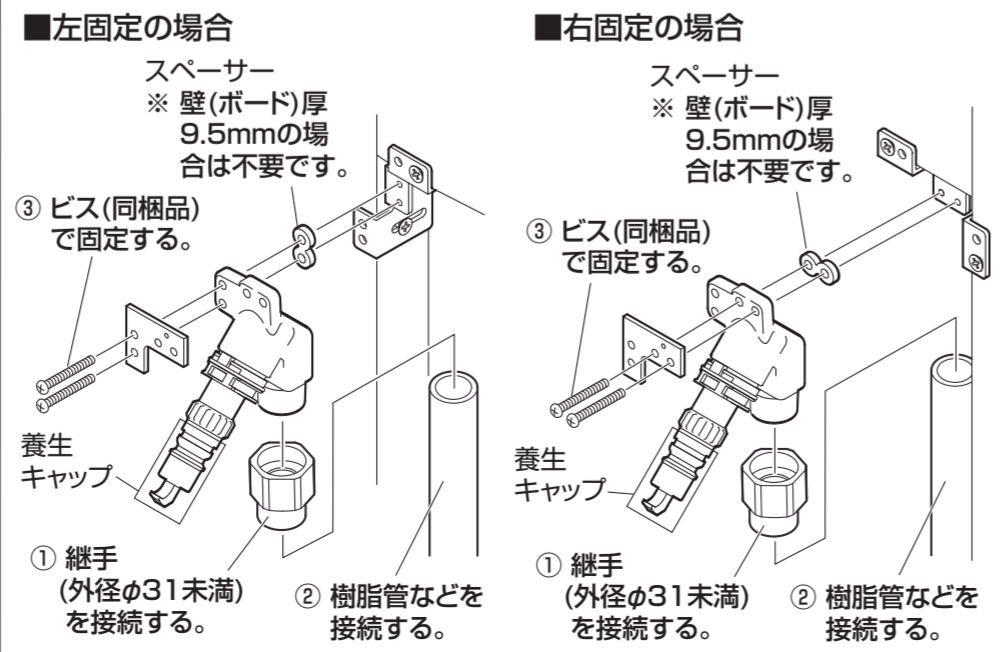


3 配管の接続・本体の取付け

配管の接続を行い、固定金具に本体組品を取付けてください。

- 本体組品に継手(外径φ31未満)を接続してください。  
 ※接続部にはシールテープを巻いてください。
- 継手に樹脂管などを接続してください。
- ビス(同梱品)を用いて、基準板及び本体組品を固定金具に取付けてください。  
 ※壁(ボード)厚が12.5mmの場合は、スペーサーをはさんでください。

- ⚠ **注意**  
 ●継手は外径φ31未満のものをご使用ください。  
 ●本体の先端に付いている養生キャップは、通水点検時まではずさないでください。  
 ●基準板が変形すると正しい基準がとれなくなるため、変形に注意して取付けてください。



4 耐圧検査

本体組品の栓棒部分を手で時計回り(吐水→止水)にあたりまで回します。ホース接手などを接続してから、各接合部の水漏れを点検してください。

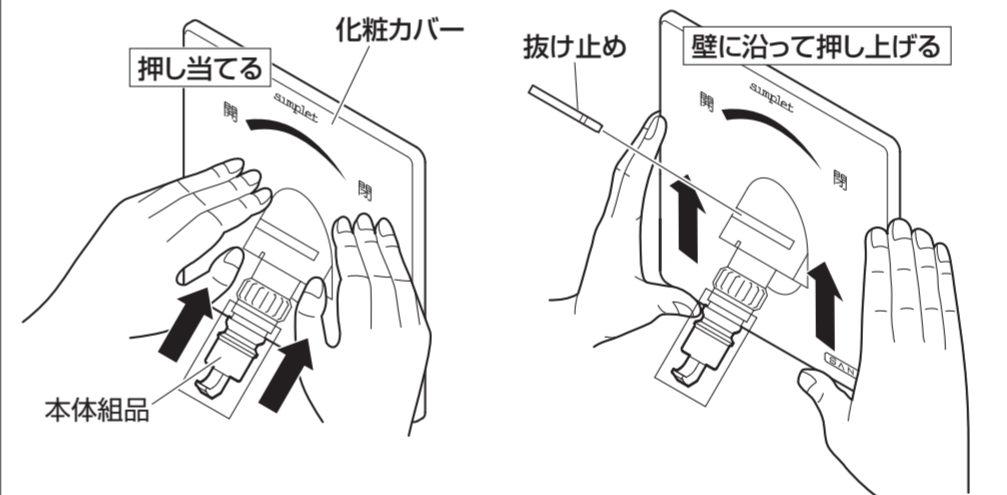
- ⚠ **注意**  
 ●通水の際は、必ずホース接手などを接続してください。そのまま通水すると、オートストッパーが作動します。  
 ●養生キャップは点検の際にはずし、点検後に再度取付けてください。  
 ●ホースをはさず際は、ホース内の水が出ますので注意してください。

5 壁(ボード)の取付け

- 別紙「施工ポイント」を参照し、壁(ボード)に穴を開け、固定してください。参照:「施工ポイント A」
- ⚠ **注意**  
 ●型紙より大きな穴を開けると、正しく施工できなくなりますので、十分確認の上施工してください。  
 ●壁(ボード)を取付ける際、壁(ボード)と本体組品が接触しないよう注意してください。破損や水漏れの原因になります。

6 化粧カバーの取付け

- 化粧カバーからレバーハンドル・抜け止めをはずしてください。  
 ① レバーハンドル  
 ② 抜け止め
- 化粧カバーを本体組品にはめ込み、化粧カバーと壁とのすき間がなくなるまで押し当てます。化粧カバーを押し上げながら、抜け止めを取付けてください。



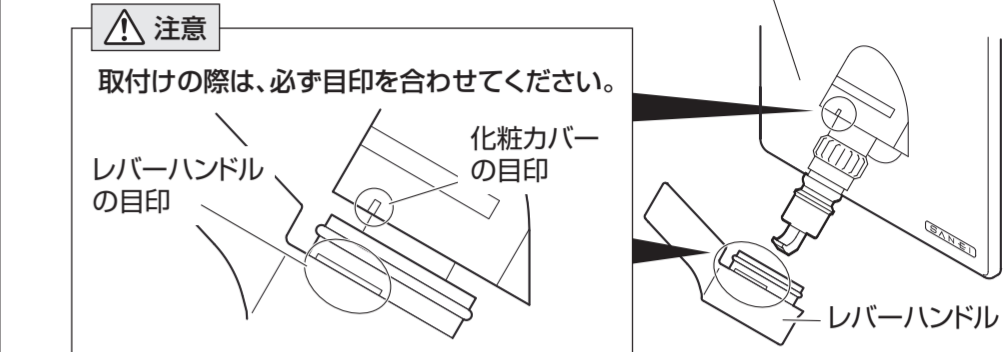
- ⚠ **注意**  
 化粧カバーを取付ける前に、本体組品のオーリングが図の位置にあることを確認してください。

- ⚠ **注意**  
 ●抜け止めは、本体組品の溝にはまるように取付けてください。
- ⚠ **注意**  
 抜け止めが固くて取付けられない場合は、無理にはめ込まないでください。故障や水漏れの原因になります。
- ⚠ **注意**  
 ●化粧カバーを壁に押し当てる際、壁と化粧カバーの間にすき間がないことを確認してください。すき間がある場合、壁(ボード)厚が間違っている可能性があります。この場合、正しく施工できません。

- ※ 次の場合は、別紙「施工ポイント」を参照ください。
  - 抜け止めを取付けることができない。  
 → 化粧カバーの穴と本体組品の溝を合わせる。参照:「施工ポイント B」  
 → 調整シート(同梱品)をはさむ。参照:「施工ポイント C」
  - 化粧カバーが水平でない。  
 → 本体組品のスレを直す。参照:「施工ポイント D」
- (3) 取付け後、化粧カバーを引っ張って確実に取付けられているか確認してください。

7 レバーハンドルの取付け

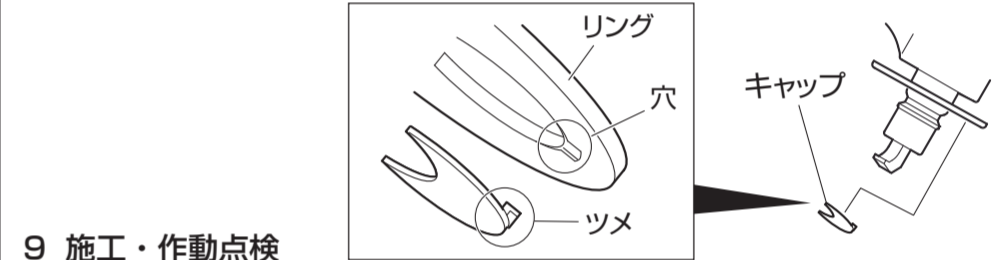
- 元栓を開てから、本体組品の栓棒部分を手で反時計回り(止水→吐水)にあたりまで回してください。
- 養生キャップをはずし、化粧カバーの目印とレバーハンドルの目印を合わせ、レバーハンドルを取付けてください。



- レバーハンドル取付後、レバーハンドルを開→閉に回し、化粧カバーと接触しないことを確かめてください。接触する場合は、レバーハンドルを取りはずし、再度手順(2)を行ってください。

8 リング・キャップの取付け

- リングを本体組品に通して溝に合わせ、右にスライドしてリングの中心穴にはめ込んでください。
- キャップのツメをリングの穴に合わせ、確実にはめ込んでください。



9 施工・作動点検

取付完了後、ホース接手を接続してから元栓を開いて通水し、作動および各接合部の水漏れ点検をしてください。

- 施工確認  
 ●化粧カバーと壁の間にすき間(すき間風)がないこと。  
 ●抜け止めが化粧カバーに確実にハマっていること。  
 ●レバーハンドルの操作がなめらかで、開閉時に化粧カバーと接触しないこと。
  - ホース接手の着脱確認  
 ●ホース接手が確実に着脱できる事。  
 ●ホース接手を引張っても抜けにくい事。
- 👉 **注意**  
 ホースをはさず際は、ホース内の水が出ますので注意してください。

点検不具合	処置	原因・対策
① 施工確認 化粧カバーがきれいにはまらない。	a b	配管や固定金具を壁面に対して平行に施工していないため、固定金具が歪んで取付けられている。 → 壁面と固定金具、配管を平行に取付けてください。参照:「施工手順2」
① 施工確認 化粧カバーと壁との間にすき間がある。	a b	壁(ボード)厚が適合していない。 → 壁厚9.5mm・12.5mm以外は適合しておりません。壁厚9.5mmの場合はスペーサー不要です。壁厚12.5mmの場合はスペーサーを使用してください。参照:「施工手順3」
① 施工確認 化粧カバーがガタつく。(確実に固定されていない)	c	抜け止めが適切な箇所に確実に取付けられていない。 → 抜け止めを本体の溝に合わせて取付けてください。参照:「施工手順6(2)」
① 施工確認 レバーハンドルを動かすと化粧カバーと接触する。	d	レバーハンドルの取付位置が正しくない。 → 参照:「施工手順7(2)」
② ホースの着脱確認 ホース接手がはまらない。	e f	通水状態である。本体内部に圧力がかかっている。 → 参照:取扱説明書「故障? その前に」処置C ホース接手が適合しない。 → 参照:「ホース接手の適合について」

こんなときは 分解と点検

取付後の故障や保守点検の際は、取扱説明書「故障? その前に」の点検表に従って点検を行ってください。点検を実施されても不具合がなくなる場合は、施工上の不具合が考えられます。参照:「施工手順9」

こんなときは 本製品の構造

※ 本製品の構造については、取扱説明書「本製品の構造」を参照ください。

